

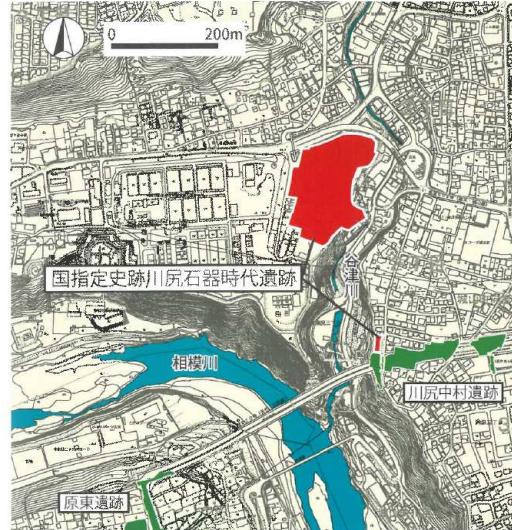
史跡 川尻 石器時代 遺跡

国指定史跡



国指定史跡 川尻石器時代遺跡

川尻石器時代遺跡は相模川左岸の台地上に位置する縄文時代の集落跡として知られ、国の史跡として指定されています。これまでの発掘調査により、約5,500~4,500年前の大規模な集落跡のほか、「敷石住居」と呼ばれる石を床面に敷き並べた住居跡や「配石墓」と呼ばれる石の墓標を伴う墓地が多数発見されています。さらに約3,500年前頃になると遺跡の東側に窪地が形成され、その周辺で生活が営まれる様子がわかつています。川尻石器時代遺跡で集落が営まれた期間は、およそ3,000年間にもわたっており、学術的に大変貴重な遺跡となっています。なお、周辺にも川尻中村遺跡や原東遺跡など、縄文時代の遺跡が見つかっています。



名 称 史跡川尻石器時代遺跡

種 別 史跡（国指定）

指定年月日

昭和6年7月31日、平成13年1月29日追加

平成16年9月30日追加、平成18年7月28日追加

15,000	縄文時代						2,300 (年前)	近世
	旧石器時代	草創期	早期	前期	中期	後期		

縄文時代の生活

縄文時代は、約15,000年前～約2,300年前まで続いた時代です（炭素14年代測定に基づく較正年代）。縄文時代は一般的に、草創期・早期・中期・後期・晚期の6期に区分されており、川尻石器時代遺跡で集落が営まれたのは中期～晚期でした。

縄文時代のなりわいは、狩猟や植物の採集に加え、植物の半栽培を行なうなど高度に発達していました。川尻石器時代遺跡から出土した骨には、狩猟の対象となったシカが認められます。また、食用になつたと考えられる炭化したクリの材などが発見されています。

住まいは、掘り窪めた地面を床とし、柱を立てて上屋で覆う竪穴住居と呼ばれる構造のもので、関東西部や中部地方などでは床面に石を敷き詰めた敷石住居も発達します。このような住居が集まって集落を形成していたことがわかつており、集落の内側には広場や墓地などもありました。

集団の結束を高めたり、自然の豊穣や再生を願うため、祭祀が盛んに執り行われたと考えられ、土器や石器などの実用的な道具のほかに土偶や石棒といった祭祀具も発達しました。



昭和5年に調査された敷石住居跡（左）と出土遺物（右）

遺跡の発見と史跡指定

大正時代に川尻石器時代遺跡で最初の考古学的調査を行ったのは石野瑛氏で、これに触発され、地元では「尚古会」と呼ばれる遺跡の保存を目的とした組織が結成されました。昭和4年には八幡一郎氏によって、敷石住居の発掘調査が行われ、遺跡の存在が広く知られるようになります。昭和5年には、文部省が小池金六氏の所有地などで発掘調査を行い、3か所の敷石を発掘したほか、31か所で敷石の埋没を確認しました。これにより遺跡の学術的な重要性が認められ、史跡名勝天然紀念物保存法により昭和6年7月31日に国の史跡として指定されました。



国指定史跡川尻石器時代遺跡

相模原市緑区谷ヶ原2丁目788番2ほか
アクセス JR横浜線・JR相模線・京王相模原線「橋本駅」下車
橋本駅北口バス停から
・橋本01・09系統三ヶ木行のバスで「久保沢」下車
・橋本07系統鳥居原ふれあいの館行のバスで「久保沢」下車
バス停から徒歩5分

お問い合わせ 相模原市教育委員会文化財保護課 042-769-8371

史跡の保存整備に向けて

相模原市では史跡川尻石器時代遺跡の保存と活用を図るため、史跡の公有地化を進め、発掘調査で発見された敷石住居跡や配石構造など特徴的な遺跡の保存整備に向け、調査・検討に取り組んでいます。



縄文時代中期の竪穴住居跡は、中央広場を中心として環状に分布しており、このような縄文時代中期の典型的な集落形態を「環状集落」と呼んでいます。その範囲は中期の中頃で直径約200m以上に及びますが、次第に縮小していく状況がうかがえます。



史跡指定地内から縄文時代後期の墓地が発見されています。なかでも配石墓と呼ばれる石を墓標にした墓が多く見つかっており、円形に縁石を巡らしたり、さらにその中に石を詰め込むものなどを見られます。



縄文時代中期末葉の約4,500年前には、從来の竪穴住居に代わって敷石住居が現れます。敷石住居は床面に石を敷き詰めた住居であり、入口側に特徴的な張り出しがあります。川尻石器時代遺跡からは多数の敷石住居跡が発見されており、その発達や変化がうかがえる貴重な遺跡と言えます。



市有地 ●縄文時代中期の竪穴住居跡



川尻石器時代遺跡では土偶、石棒、石剣など縄文時代後期～晩期を中心とする豊富な祭祀遺物が出土しています。これらの中多くは、焼けた動物の骨と共に「中央窪地」と呼ばれる集落の中心に形成された窪地の周辺で出土しており、窪地内に盛んに祭祀が行われていた様子を伝えています。



当時の人々にとって水は生活に欠かせないものでした。谷津川には人びとが利用したと考えられる豊富な湧水などが見られます。



これまでの発掘調査により、史跡指定地の内外で縄文時代中期の竪穴住居跡が80軒以上発見されており、未調査のものを含めるとその数倍が存在すると考えられます。これらの住居は、およそ1,000年の間に残されたもので新旧の住居跡が重複して発見されます。



昭和5年に発掘調査された敷石住居跡の露出展示です。外周を囲う石垣部分は後世に造られたもので、その内側部分が縄文時代の遺構です。



縄文時代後期後半から晩期にかけて、居住の跡は希薄になりますが、同一空間で長期にわたって墓地が営まれるようになります。



行ってみよう！市内の国指定史跡

史跡寸沢嵐石器時代遺跡

緑区寸沢町568番2ほか



昭和3年に発見された縄文時代中期末の敷石住居跡で、川尻石器時代遺跡とともに敷石住居研究の黎明期に調査が行われた考古学史上、重要な遺跡です。

史跡勝坂遺跡公園

南区勝坂1786番ほか



縄文時代中期の大集落跡、「大自然の中の縄文時代」を体感できる遺跡公園として整備され、園内には竪穴住居が復元されています。

史跡田名向原遺跡公園と旧石器時代ハテナ館

中央区田名塙3丁目13番ほか



約20,000年前にさかのぼる旧石器時代の建物跡、ガイダンス施設「旧石器ハテナ館」で、旧石器時代について学習することができます。